



たより

校訓 自学・共学・創造



令和3年9月24日

日光市立藤原中学校



新学期を迎えて

夏休みが終わり、2学期が始まりました。

幸いにも休み中に事故の報告もなく、全生徒が無事に夏休みを過ごすことができたことを本当に嬉しく思います。しかし、栃木県では8月20日から緊急事態宣言が発令され、学校が始まることさえ危ぶまれましたが、午前中授業ながら2学期が始業しました。始業式では「ピンチはチャンス」という話をしました。コロナ禍によるピンチの中、午前中授業や短縮授業により、自分を伸ばすチャンス（時間）ができました。

ところで、長い休みや短縮授業等で生活のリズムが狂ったりしてはいないでしょうか。自分を律して規則正しい生活を心がけてほしいと思います。今学期は、運動会や文化祭等の大きな行事があります。3年生は中学校生活最後の行事になります。新しい生活様式に対応しながらも、よい思い出がつかれるよう教職員と生徒が一緒になって、よりよい方法を探っているところです。



オンラインによる始業式

感染状況が少しでも改善し、保護者のみなさまにも、お子様の活動の様子をご覧いただけることを願っています。

藤原中学校長 堀越 真人

●職員紹介 ○○先生

9月8日に 小学校から赴任してまいりました。藤原中学校の生徒は、素直で元気な子が多いなという印象です。早く名前を覚えてみんなと仲良くなりたいと思います。趣味は「物を作ること」です。

どうぞよろしくお願ひします。



特別支援学級 1 組担任・1 年国語担当・図書委員会・バスケットボール、剣道部副顧問

10月の学校行事（9/24現在）

9/30	木	中間テスト
10/5	火	1年喫煙防止教室
7	木	2年小児・貧血検査
8	金	3年実力テスト
9	土	地区新人大会（～10日）
12	火	3年進路説明会・1年日光自然体験教室

13	水	運動会準備
14	木	運動会
21	木	地区駅伝大会
24	日	地区新人陸上大会
25	月	県学校音楽祭中央祭（～26日）
29	金	文化祭（霜月祭）

* 今月は短縮日課や行事の延期等により、子ども達の活動場面の紹介が少なくなっていました。

10月号は盛りだくさんの内容でお送りしたいと思います。



東京オリンピック 「日本バスケ史上初の快挙！」

メダルラッシュに沸いた東京オリンピックでは、本県出身の選手も大いに活躍しました。今回の金メダル第1号となった柔道の高藤直寿選手、惜しくもメダルを逃したスポーツクライミングの榎崎智亜選手、復活を果たした水泳の萩野公介選手、女子バスケットボールでは、白鷗大学出身の林咲希選手が、全6試合に出場し計68得点の大活躍で快挙に貢献しました。

私が今回のオリンピックでもっとも注目したのは、女子バスケットボール日本代表の指揮官を務めたトム・ホーバス監督。東京オリンピックでは、ちょっと変わった日本語で熱いゲキを飛ばしている姿が印象的でした。コート上では、とても厳しい指導が有名で、身長の高い日本が勝つには、40分間ずっと走り続けながらの徹底した組織力が必要と、数十通りのフォーメーションを書いた紙を、体育館の壁に貼り付けていたそうです。コート外では、とてもチャーミングで面白く、選手からの信頼が厚いことでも知られています。ゲーム中に激しく叱られた選手が、ゲーム終了後にトム監督とハグしている姿がそれを物語っています。

見事、銀メダルに輝き、トム監督は「スーパースターはいないけど、スーパーチームだ」と、選手たちに賞賛を送ったそうです。日本人のよさを生かしチームプレーを重んじたところは、本校の目指す生徒像「自分らしく輝き、人のために生きる」に通じるところがあると思います。

コラム ii

下野新聞(9/3)に、「身体的”密”避け精神的には密を」と題して次のような記事が掲載されていました。『ポストコロナ時代の学びの方向性として、オンライン授業などICTを活用した教育が推進されているが、子どもにとっては学校という「場」に意味があると気付かされた。(中略)対面での学びは子どものやる気さえ喚起していたのだ。人間は元来、家族や仲間と協力しながら進化してきた。身体的な”密”を回避しつつも、運動会や卒業式といった行事の在り方を一緒に考えるなど、精神的な”密”を学校や社会がどのようにつくり出していくかが問われている。』という内容です。

本校でも1人1台の学習端末を配布したところですが、現在、授業や学校生活、オンラインにおいて、ICT機器の使い方を試行錯誤しているところです。「ICTありき」ではなく、適材適所で活用し、子どもの生活や健康への影響を考えながら、有効活用を目指していきます。



市教委の先生によるICTに係る職員研修



タブレットの使い方の授業

